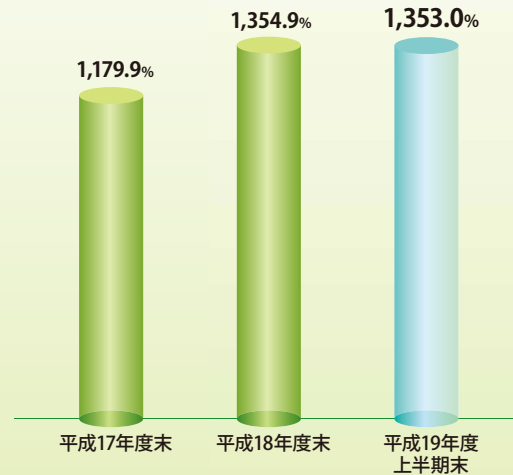


引き続きトップレベルの健全性を堅持しています。

ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率の推移

1,353.0%



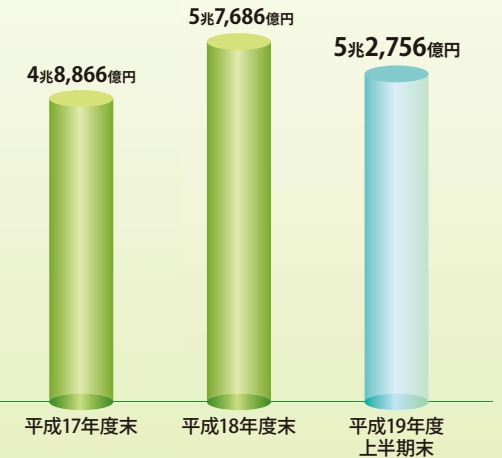
予測を超えたリスクにも
十分対応できる支払余力を
確保しています。

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。平成19年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は、1,353.0%と十分な支払余力を確保しています。

実質純資産額

実質純資産額の推移

5兆2,756億円



健全な経営を維持していく
ための十分な純資産額を
備えています。

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。平成19年度上半期末の実質純資産額は、5兆2,756億円で、一般勘定資産に対する比率は20.7%と十分な水準を確保しています。

含み損益 (一般勘定資産全体)

3兆3,037億円

当社は次の主要な資産すべてにおいて、
含み益を確保しています。(平成19年度上半期末)

公社債 554億円	株式 2兆4,710億円
外国公社債 1,269億円	外国株式等 3,045億円
土地 ^(注1) 3,427億円	その他 ^(注2) 29億円

(注1) 土地には借地権を含めています。

(注2) その他は、買入金銭債権・デリバティブ取引等です。

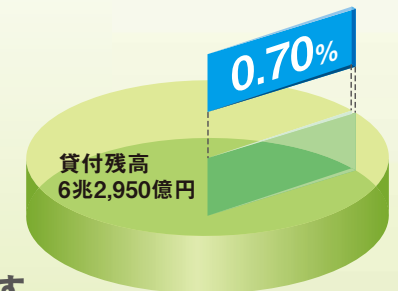
バランスのとれた堅実な
資産内容で、十分な企業体力を
堅持しています。

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額(取得価額)との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。平成19年度上半期末は、一般勘定資産全体で3兆3,037億円の含み益を確保しています。

リスク管理債権

0.70%

(リスク管理債権額の
貸付残高に対する比率)



厳正な自己査定を実施し、
資産内容の健全性を堅持しています。

リスク管理債権とは、貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3ヵ月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分した総称です。平成19年度上半期末のリスク管理債権額は440億円、貸付残高に対する比率は0.70%と、きわめて低い水準を堅持しています。

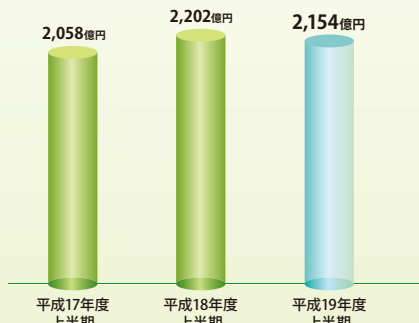
基礎利益

2,154億円

安定した収益力を有しています。

基礎利益とは、保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表す指標です。基礎利益から、有価証券等の売却損益や評価損、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款に従い配当としてご契約者に還元しています。平成19年度上半期においても、2,154億円と安定的な収益力を確保しています。

基礎利益の推移



■ 基礎利益の内訳 (三利源)

(単位: 億円)

	平成18年度上半期		平成19年度上半期	
	前年同期差		前年同期差	
基礎利益	2,202	144	2,154	△47
費差	716	△8	520	△196
危険差	2,087	81	2,004	△82
逆ざや	△601	70	△370	230

基礎利益は、その内訳として「費差」「危険差」「逆ざや」の三利源から構成されています。

- **費差**
保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額
- **危険差**
保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
- **逆ざや**
保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額

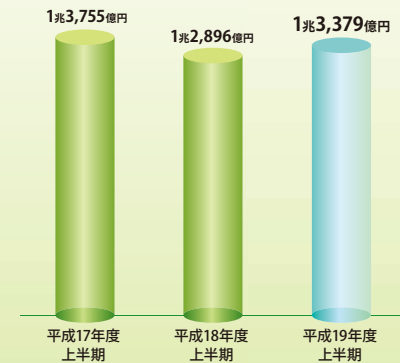
保険料等収入

1兆3,379億円

おかげさまでみなさまにご支持いただいております。

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。平成19年度上半期の保険料等収入は、1兆3,379億円(前年同期差482億円増)となりました。

保険料等収入の推移



格付

健全な財務内容で、格付会社から高い評価を得ています。

「格付」とは、会社の収益力・財務状況などを、さまざまな角度から総合的に評価し、わかりやすい記号で表わしたものです。

平成19年11月1日時点

格付投資情報センター (R&I)	保険金支払能力格付け	A+
日本格付研究所 (JCR)	保険金支払能力格付け	A+
スタンダード&アアーズ (S&P)	保険財務力格付け	A-
フィッチ・レーティングス	保険会社財務格付	A+
AMベスト社	保険財務力格付け	A ^(Excellent)

※「保険金支払能力格付け」(R&I)は、保険会社の保険債務が約定通り支払われる確実性についての意見です。「保険財務力格付け」(S&P)は、保険契約の諸条件に従って支払いを行なう能力に関して保険会社の財務内容を評価した意見です。「保険会社財務格付」は、保険会社の財務力についての評価を表すもので、保険契約者債務にかかる保険会社の支払能力に対して付与されます。
※上記の格付は、当社が依頼して取得したものです。
※格付は、個別の保険契約の加入・解約・継続を推奨するものではありません。
※格付は、上記時点での格付会社の意見であり、将来的に変更・保留・撤回されることがあります。

お役に立った保険金・年金・給付金は、9,469億円でした。

平成19年度上半期にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は、9,469億円でした。これからもご家族が安心して暮らしていくことを願う「こころ」を、保険という「カタチ」で、数多くのお客様にお届けします。

平成19年度上半期にお支払いした保険金・年金・給付金の件数・金額 (個人保険・個人年金保険に加え、団体保険・団体年金保険などを含む)

	件数	金額
保険金	16万7千件	4,957億円
うち死亡保険金	6万4千件	2,159億円
年金	200万2千件	1,722億円
給付金*	240万7千件	2,789億円
合計	457万8千件	9,469億円

※給付金には、入院給付金・手術給付金のほか、ハッピー-L.A.ボーナスやお祝金なども含めています。

責任準備金の追加積立により、さらなる財務基盤の強化に取り組んでいます。

国際会計基準による保険負債の時価評価導入を先取りするかたちで、平成19年度から3年間にわたり責任準備金の積み増しを実施し^(注)、将来の逆ざやの早期解消を図り、財務基盤の一層の充実に取り組むとともに、お客さまへの安定的な配当還元をめざします。なお、平成19年度上半期には、3,350億円の積立を実施しました。

(注)平成8年4月1日以前にご契約いただいた個人年金保険を対象に、予定利率2.75%を用いて責任準備金を計算して生じた差額を、追加責任準備金として段階的に積み立てます。
なお、平成22年度以降新たに年金支払を開始するご契約については、年金開始部分につき、年金開始の都度対応します。